

けんぽく

第11号[平成26年10月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成26年10月30日発行
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆平成26年度「畑の学校」のサツマイモ収穫！

平成26年10月2日(木)、大玉村大山谷地地内の「畑の学校」ほ場において、大玉村立大山小学校の5年生児童や、「畑の学校」応援団(地域の人等)により、5月に丹精を込めて植えたサツマイモの収穫が行われました。

最初に、「畑の学校長」の伊藤一男氏より「最近は、食べ物を粗末にしていますが、サツマイモを収穫することにより、食べ物に、感謝の気持ちを持ってください。」との挨拶がありました。また、サツマイモが日本に伝わった経緯や、サツマイモ収穫の方法について話を伺いました。

その後、児童は、大喜びで、サツマイモのつるをカ一杯に引き抜き、畑の隅に運び出しました。ほ場に植えられているサツマイモは、早く掘り起こして欲しいように、つるの間から大きな顔を出していました。

児童は、「ズルズル」と声を発しながら、サツマイモのつるを引っ張って収穫していました。

昼食直前の時間帯に収穫を行ったことから、収穫したサツマイモが「焼き芋」に見えたのか、児童からは「腹へった」という声も聞かれました。

昨年より大きなサツマイモが収穫でき、児童の目には満足感がみなぎっていました。



みんなで、1本、1本、丁寧に掘り起こします。



でっかいサツマイモだ！おいしそうだね。



そうそう、そのように優しく引き抜くんだよ。



(農村整備部)

◆あぶくま伝統野菜のPRが行われました！

平成26年10月26日(日)に、二本松市岩代地区の「さくらの郷」直売所の大収穫祭において、「あぶくま伝統野菜をつくる会」による伝統野菜のPRが行われました。

あぶくま伝統野菜は、岩代昔胡瓜(キュウリ)、岩代五葉黒豆(ダイズ)等、7種類が同会により確認されています。今回は、その内、岩代地南瓜(カボチャ)と岩代伝統里芋(サトイモ)の試食品等を来場者にふるまいました。

また、試作を繰り返して完成した「岩代地南瓜の石窯ピザ」も、「さくらの郷」直売所で販売されました。

来場者からは、「こんな野菜が地元にあるなんて、知らなかった。味が良くておいしい」等、評判は上々でした。

(企画部)



伝統野菜の試食品をどうぞ！



焼きたての「岩代地南瓜のピザ」

◆国見町小坂地区で「稲の収穫体験会」が開催されました！

平成 26 年 10 月 18 日(土)、国見町の農業生産法人「小坂アグリ株式会社」(朽木勝之代表取締役)主催で、稲の収穫体験会が開催されました。

この催しは、同法人が県の「ふくしま米産地戦略推進事業」を活用し、地元の子供達に「天のつぶ」を知ってもらう取組として、国見町の生涯学習事業との連携により実施したものです。当日は、地元の小学校 5、6 年生、24 名が参加しました。

午前中は、小坂アグリ株式会社の耕作水田で、同法人メンバーや J A 伊達みらい営農指導員等の指導を受けて、稲刈りを行いました。稲刈りは、半数以上の子供達が経験したことがあり、手際よく行われました。さらに、刈った稲束の積み方を教えてもらい棒掛けにしました。

昼食では、同法人が作った新米「天のつぶ」と豚汁が提供されました。午前中の作業で、お腹がすいてご飯をお代わりする子供も多く、大変おいしそうに昼食を食べていました。

午後は、伊達農業普及所職員が講師になり、米作りに関する講義を行いました。さらに、お米に関するクイズやゲームを行い、お米に関する理解を深めました。お米に関するゲームでは、台秤で計量する方法を同法人から教わりました。また、2 種類のご飯を食べ比べて、どちらが「天のつぶ」かを当てるゲームでは、女子の方が正解率が高く、中には見た目や香りだけで正解を言い当てる子供もいました。

閉会式では、お土産に「天のつぶ」の 2 合入り袋が渡されました。

今秋、同法人は、東京都羽村市や日本橋ふくしま館 MIDETTE など「天のつぶ」の販売に取り組む予定です。



棒がけも体験しました



初めて台秤で計量に挑戦

(伊達農業普及所)

◆きのこの出荷管理状況調査を行いました！

本格的なきのこの季節を迎え、当農林事務所は、直売所等のきのこの出荷管理状況調査を実施しました。

今回は、今春まで出荷管理状況調査を実施してきた直売所に加え、集荷場やスーパーも調査の対象としたため、調査箇所が大幅に増え、大がかりな調査となりました。

実施時期は、平成 26 年 9 月 24 日から延べ 16 日間で、

県北農林事務所森林林業部のほか、企画部・農業振興普及部・伊達農業普及所・安達農業普及所の職員延べ 31 人で、県北管内の 174 か所でのきのこの出荷管理状況の調査を行いました。

調査の結果、表示方法等が分かりにくい商品等が確認され、店舗責任者に是正を求めたものが数件ありましたが、流通・販売が認められていないきのこの販売は、確認されませんでした。

調査は、順調に行われ、10 月 10 日には、予定した全ての箇所の調査を終えることができました。

快く調査に御協力をいただいた直売所・スーパー等の皆様に、心から感謝申し上げます。

(森林林業部)



店頭でのきのこの販売状況



出荷管理状況調査の様子



◆「天のつぶ」新米を味わうツアーを開催！

平成 26 年 10 月 4 日(土)、県のオリジナル水稻品種「天のつぶ」の魅力を PR する「天のつぶ生産地福袋ツアー」を行いました。

このツアーは、県の主催で、新米の味わえる季節に、消費者の方々に、天のつぶの生産地や米検査場などを、バスで巡って頂くものです。

当農林事務所では、県内 7 コースのうちの一つとして、県南・南会津の消費者の方々約 30 名を招き、国見町の「小坂アグリ株式会社」において、朽木社長の案内により、コンバインによる稲刈りや乾燥調製施設の見学、新米のおにぎりの試食を行いました。

参加者は穴原温泉の「吉川屋」で、小坂アグリ提供の天のつぶの新米を使用した地産地消お弁当を昼食として堪能し、みんなの楽しい笑顔が広がりました。

また、二本松市の米の全量全袋検査第 4 検査場で、検査状況も見学しました。熱心な質問が出され、参加者の関心の高さがうかがえました。

その他、フルーツラインの「あづま果樹園」での巨峰のもぎ取り体験や JA 新ふくしま直売所「こころ」吾妻店での買い物など、盛りだくさんの内容で、消費者の方々に、県北の秋の実りを満喫して頂きました。



参加者全員で記念撮影、パチリ！



朽木社長の説明に熱心に耳を傾ける参加者



米の全量全袋検査を見学しました

(農業振興普及部)

◆イノシシを知り、効果的な捕殺で地域を守る！ 「安達地域鳥獣害対策研修会」開催！

平成 26 年 10 月 16 日(木)、二本松市東和文化センターで、安達農業普及所の主催により、安達地域鳥獣害対策研修会を開催しました。

平成 25 年度の安達地域における野生鳥獣被害額は 1,600 万円を超過し、このうちイノシシによる被害が 9 割を占めております。数多くの農業者等が頭を悩ませているなかでの開催となり、当管内外から一般農業者、新規狩猟免許



須永重夫氏の講演の様子



わなの設置の実演に興味津々の参加者

取得者・志望者、有害鳥獣捕獲隊員・鳥獣被害対策実施隊員等、総勢 116 名と、多くの方に参加して頂きました。

当日は、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの須永重夫氏を講師に招き、「イノシシの生態とわなによる捕獲法」と題して、イノシシの生態や捕獲効率のよいわなの設置方法について講演して頂きました。

須永氏はこれまでに 3,000 頭以上のイノシシを捕獲しており、その高い捕獲技術や鳥獣に関する見識は、深く実用的で、参加者は真剣に耳を傾けていました。

講演後は、わなの設置及び操作方法の実演を行いました。

箱わな、押しバネ式くりわな、引きバネ式くりわなを実際に設置しながら、構造や設置方法を教えて頂き、参加者は、イノシシを追い払うことだけでなく、捕獲に対する意欲が高まったようでした。

捕獲に携わる方や被害を受けている農業者・住民など、地域が一体となって、鳥獣害対策へ取り組むことにより、鳥獣被害が軽減することを期待します。

(安達農業普及所)

生活協同組合コープふくしま

地域とともに コープふくしま！

コープふくしまは、県北、県中・相双・いわきの各地域の 18 万人の組合員が出資して利用・運営している「生活協同組合」です。

創立は 1932 年で創立 84 年を数える全国でも歴史ある生協です。

事業活動は、店舗 11 店舗と、共同購入(個人宅配・グループ配達)が主事業で地域の皆様に食料品、生活用品を中心に供給活動(販売)を行っています。

他にも、地域の皆様と一緒に、様々な活動(地産地消運動、環境活動、助け合い、ボランティア活動など)を行っています。2011 年の東日本大震災以降は、被災者、避難生活者への支援物資の提供や、寄り添う活動(仮設住宅でのサロン活動)にも積極的に取り組んできました。また、原発事故による放射能問題にも正面から向き合い、放射能学習会・実際の食事による内部被ばく調査(陰膳調査)・環境除染ボランティアなどにも、積極的に取り組んでまいりました。これらの取組は、県民の様々な思いに寄り添い、「安心を取り戻す一助になれば」と、地域の皆様とともに行っています。

避難生活者の仮設住宅や買物不便地域への車での「移動販売」も行っています。

さらに、県産農産物の風評被害対策についても地域生産者ととも「福島応援隊」(もも・りんごギフト)や「福島応援BOX」(県産野菜の共同購入企画)を全国の生協や取引先などに紹介し、合わせて、産地交流、被災地視察訪問の案内なども積極的に取り組んできました。

全国各地の生協へ県産農産物の取扱い企画紹介、PR活動にも積極的に行っています。

また、震災以前より、「地産地消」運動にも積極的に取り組んでいます。

県産大豆の生産振興・消費拡大のため、生産者(JAグループ)、加工業者、とともに「ふくしま大豆の会」の設立に関わり積極的に取り組んでいます。店舗では各店の地元生産者が直接農産物を持込販売している「旬菜市場」も常設しています。

さらに毎年秋に「地産地消まつり」をJAさんと協同で実施しています。



共同購入 配達トラック。県内 40,000 世帯に毎週配達。



コープmart(店舗) 県北地域に11店舗。地域の台所です。



移動販売車。仮設住宅や買い物不便地域に行っています。

【「コープふくしまの地産地消の取組」は次ページ】

～コープふくしまの地産地消の取組～



大豆の会「畑の学校」。生産者と一緒に種まきです。



県産品応援 地産地消まつり。JA全農フェアーの様子。



避難生活を強いられている仮設住宅での炊き出しです。



県産豚 麓山高原豚のおすすめです。



県産米もライシーホワイトと一緒にPRしました。



県産果物の応援「福島応援隊」で、全国に発信、利用を呼びかけました。

農業農村整備事業県内巡回「復興パネル展」

<開催日時>

平成 26 年 11 月 21 日 (金) 13 時

～12 月 1 日 (月) 12 時

<場 所>

二本松市米沢下川原田

『道の駅安達(下り線)』 道路情報ターミナル内

<パネル展内容>

- ・東日本大震災により、福島県の農業・農村が受けた被害の状況
- ・復旧への取組状況
- ・福耕支援隊(農業土木技術者の県外派遣職員)紹介

<問い合わせ先>

県北農林事務所 農村整備部

電話番号： 024(535)0356

東日本大震災により、県内の農地や農業用施設は甚大な被害を受けましたが、その後、多くの県民の皆様から御支援と御協力をいただき順調に復旧しております。

復旧・復興の状況を広く県民に知っていただくため、県内巡回「復興パネル展」を開催します。

ぜひ、御覧ください!

以前の田んぼと変わらず、収穫しています。

復興・復旧に頑張っています



皆様からの御意見・御要望など 様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

